

チンゲンサイ

使用産地：宮城県、茨城県など

前作終了後

使用時期：前作終了後すぐに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 10袋以上/10a

使用方法：残っている土中の残根・残渣などの有機物とともに全層混和

効果：定期的に行うことで深くやわらかい土になっていきます。

その他：前作終了後は水分もありますので、出来るだけ早くコフナを投入し微生物を繁殖。

前作終了後に投入できなかった場合

使用時期：直播や移植の10日～2週間前までに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 10袋以上/10a

使用方法：元肥とともに全層に混和

注意点：未完熟の堆肥と同時に施用しないで下さい。

夏場に圃場が空く場合

散布時期：夏場

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMP 10袋以上/10a

使用方法：コフナ・ソーラー法

注意点：コフナと一緒に醗酵熟の上がりやすい有機物を一緒に投入して下さい。

不耕起栽培の場合 代表例：宮城県仙台市

10数名のグループでチンゲンサイ、小松菜、雪菜などコフナ使用の野菜として契約栽培しています。不耕起栽培を始めて20年以上（年7～8作）になりますが、不耕起栽培にも2つ方法があります。

①毎年コフナ・ソーラー法を行ない1年間の不耕起を繰り返す方法

実施時期：5月上旬～6月中旬（1～1.5ヶ月）

使用数量：◆コフナ・ソーラー法時

コフナ1号 225kg

有機配合（6-4-1） 60kg

過石 60kg

ケイ酸カリ 20kg

モミガラ堆肥

いずれも/10a

◆その他

コフナはこの他に年2～3回投入

②条件が整えば連続不耕起に入る方法

①の方法を数年行ない、土の状態、根張り、葉肉の厚み等が安定してから。

コフナ・ソーラー法は行わない。

使用数量：◆元肥

コフナ 225kg

有機配合（6-4-1） 100kg

過石 100kg

ケイ酸カリ 40kg

モミガラ堆肥

いずれも/10a

◆その他

コフナはこの他に年2～3回投入

いずれもセンチウ・土壌病害・雑草が軽減され、雑草は全体の量が減るとともに、種類も減っていきます。播種前に鎮圧をかけることにより保水力が増し、夏場の地温上昇も抑制され根張りも良くなります。

茨城県坂東市の例①

栽培作物：チンゲンサイ（露地・ハウス）
 トマト（ハウス）
 レタス（露地）

使用方法：ハウスには、コフナ・ソーラー法を行う際にコフナMPSS 10袋/10a
 ビオマス10袋/10a使用。
 またトマト定植前にコフナMPSS 10袋/10aを散布。
 肥料に関しても有機主体の肥料を使用

月次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハウス		←	←	←	←	←	←	←				
30a				コフナ・ソーラー法								
	●	チンゲンサイ										●
露地			→	→	→				→	→	→	
130a			チンゲンサイ						レタス			
							●	●				

茨城県坂東市の例②

※農耕と園芸2013年1月号より抜粋（原文一部加筆）

「土壌改良資材としてコフナを入れていますが、同時にもみ殻と半熟状態の鶏糞を2対1で混ぜ、半年間寝かせて完熟させた堆肥を使っています」

また、盛夏に約40日間、太陽熱消毒を行い、消毒後1週間ほどで植え付け、成長期に化成肥料を少々入れる程度で、病害のない安定した収穫が得られているとのこと。

「太陽熱消毒を行い始めてから、病害だけでなく雑草も減りました。土中温度が70℃近くなるので、雑草が発芽しなくなるのですね」

土中の環境をコフナで整え太陽熱で守る、という戦略が、〇〇さんの土づくりです。

